

県北・日光版

インテリアで見える日光

魅力発信へ自分史発刊

【日光】インテリア関連の総合商社「ユザワ」（瀨尾）の湯澤隆司社長（70）はこのほど、会社設立30周年の記念として「積小為大」のインテリア自分史」を発刊した。事業を拡大させてきた中で得た知見やインテリアの観点から見た日光の魅力などをまとめた。自らを「日光インテリア大使」と名乗る湯澤社長は「日光には日本のインテリアの黎明期を代表する建造物が多い。その魅力を発信し地域を活性化させたい」と話している。

（岡田慶子）

金谷ホテル、英国大使館別荘、明治の館

総合商社の湯澤社長

農家の長男の湯澤社長は23歳の時、国の青少年海外派遣事業で米国に滞在。ホームステイ先で欧米のインテリア文化に感銘を受けた。農業から転身し、宇都宮市のインテリア商社で13年間、修業したという。

卸売り・施工を手掛ける会社を設立。「トップを目指す」を理念に、年商約10億円の企業へ成長させた。創業と同時に夜間はインテリアコーディネーターの専門学校に通い、「栃木インテリアコーディネーター協会」の前身団体も立ち上げて初代会長に就任。湯澤

3年前、日光金谷ホテルのリフォームに携わったのを機に「日光の魅力を多くの人に届けたい」とネットなどでPRを始めた湯澤社長。同書を通じて「昨年の市区町村魅力度ランキング13位だった日光のランキングアップになれば」と願う。

1200冊を作り全国の



座右の銘である「宮尊徳の言葉をタイトルにした「積小為大」私のインテリア自分史」を発刊した湯澤社長

取引先に届ける。母校の今市第一小に10冊を寄贈したほか、先着20人に無料で贈呈するという。

1025。

（岡田慶子）0288・30・